
綺麗だね♪ シーズン2 「君の事が好き」

こいん0712

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

綺麗だね♪シーズン2 「君の事が好き」

【Nコード】

N5489K

【作者名】

こいん0712

【あらすじ】

木島グループとの激闘から3ヶ月ちよつとやつと、夏休みがやって来た！！！！！

レンのカッコよさがパワーアップ

美鈴の可愛さ、デレ度がパワーアップ

山本のバカ度がパワーアップ

綺麗だねのシーズン2の幕が、今！上がる

第1話夏休みスタート（前書き）

どうも、こいん0712です

シーズン1の時と書き方を変えてみました

後あらすじには夏休みと書いてますが夏休み以外のことも書きます

第1話夏休みスタート

僕が、木島グループを壊滅してから3ヶ月とちょっと

僕たち学生にとって、最高の季節が、やって来た・・・・・・・・・・
それは「夏休み!!!!」

夏休みは季節じゃないけど僕達、学生にとったら夏休みは一種の季節みたいな物だ

「夏休みだー!!!、海だー!!!、水着のお姉さんだー!!!、ナンパの季節だー!!!」バカ本が叫ぶ

バカ本とは、僕が山本に付けたあだ名だ

あまりにもバカということが判明したので、僕が付けた。本人も何故か気に入ってる

ちなみに、僕はバカ本とは、同じ事は思っていない

でも・・・・美鈴の、水着姿を見れるのは嬉しい

美鈴は胸がでかい、だから男としては美鈴の水着姿をぜひ見たい

「レンもナンパするよな？」バカ本が僕の、肩に手を置き言った

こいつは、学習能力が無いのか？毎日言ってくるけど、僕は毎日断

ってる。

僕には彼女がいるのに何でナンパしないといけないんだ

「俺には美鈴がいるって毎日言ってるだろうが」僕は足払いでバカ本をこかしてうつぶせにして

「いい加減にしろ！！バカ本があ」僕はキャメルクラッチをかけた僕はプロレスが大好きだ。だから、プロレス技の名前もかけかたも知ってるからバカ本がふざけ過ぎた時に結構かけたりしている

「痛い、痛い、痛い、マジで痛いから早坂！！死ぬううう」バカ本は床を叩きながら言った

「ギブ？ギブか、バカ本」

「ギブ、ギブ、ギブ」バカ本は苦しがつている

「しょうがないなあ、ほれ」技を解くと

「早坂マジで、やりすぎ俺いつか死ぬかもよ」

「ないない、俺死なない程度でやってるから」本当は嘘、たまに殺す気でやる

だって、バカ本テンション高くなるとうっとうしいんだもん♪
キモいかな？

「あーレン楽しそう」バカ本とふざけあっていると僕の彼女、美鈴がやって来た

美鈴はかなり可愛い。ちょっと褒めすぎかもしれないけど。後この三ヶ月ちよっとの間に何回か告白されたらしいけど、もちろん僕が

いるから断った……自意識過剰、過ぎるかな？

「ねえ、レン今日デートしようよ♪」いきなりデートの申し込みですか美鈴さん挨拶は？

「美鈴、おはよ今日は予定無いから大丈夫だよ」

「やったー、レンとデート、デート♪」美鈴、ホント性格変わったな僕は心の中でうなづく
初めて会った時はツンデレって感じだったけど今はデレの部分しか残っていない

「ちょっと待ったー」さっきまで死に掛けてたバカ本が叫んだ

「俺も、早坂とデートするー！」

「お前はだまあってろ」僕はオリジナルヘッドロックをかけた

「いてえーいてえーよ早坂もうギブ、ギブ」僕が技を解くとまた、バカ本はぐったりした

「じゃあレン今日レンの家行くねー」美鈴は手を振ると女子の群れにダイブしていった

「えっ……もうちょっと喋りたかったな」僕が呟くと

「早坂、俺がいるじゃないかー」バカ本が、起き上がり抱き付こうとしてきた

「うるせえー」僕はおもいきりでは、無いけど腹を蹴った

そう、僕は期末、中間ともに学年1位だった
自慢じゃないけどね。って言ったほうが、いいんだろうけど、かな
りの自慢だ

ちなみに美鈴は341人中29位だった

バカ本は341人中340位こいつは凄いバカだ
何でこんな奴が高校に受かったのだろう？

こうして、1学期の幕が降りた　そして夏休みの幕が上がった

「レーン、一緒に帰ろっ」

「美鈴、ちょっと待って今準備するから」

「了解」美鈴は手でグウーとやって笑った
決してエ〇はるみのネタではない

「準備出来たから帰ろうか」僕は美鈴の手を取り歩いた
下駄箱を開けるとラブレターが入っていた

何かこのごろ入ってるけど全部無視している

「レンっモテモテだね、でも浮気したらだめだよっ」

「わかってるよ、言ったら俺は美鈴だけのものだって、だから心配
すんな！」

僕は美鈴を家まで送り美鈴の唇にキスをして自分の家に帰った
まあ、送るって言っても美鈴は後で俺の家に来るんだけどね

その後今日美鈴といろんな所に行って遊んだ
家に帰ってくると「疲れたー」そう言って僕は冷蔵庫に入れてある
コーラを飲み干して風呂に入って寝た・・・・・・・・歯を磨くの忘
れたー！！！！

第1話夏休みスタート（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます

感想、アドバイスお願いします

登場人物紹介（前書き）

シーズン2から見だした人の為に人物紹介をします

登場人物紹介

早坂 恋

自分の名前が嫌いだったが可憐と美鈴に名前を褒められ、自分の名前が好きになった

昔、喧嘩のキューピッドと呼ばれるほど喧嘩は強いが木島グループを潰した時にその名前を捨てて普通の高校生活を送る事にした

美鈴にベタ惚れ。

料理が結構うまい

成績は学年1位

最近モテ期

北條美鈴

この、小説のヒロインでレンの彼女

レンと同様にレンにベタ惚れ

昔はいじめられっこだったが今は本当にそうだった？と思うほどキツイ性格

レン以外には・・・

レンの前ではツンデレだったが今はデレのみ

成績は上の中くらい

かなり、オシャレで可愛い

北條可憐

美鈴の姉

頼れるお姉さんって感じの人

どんな時でも、冷静

レンの友達第1号

料理が上手

成績は上の上

山本 大和

かなり、ずうずうしい奴

レンに付きまといていつも殴られている

名前にやまが多い

かなりバカ

あだ名がバカ本、レンが付けたあだ名で本人も何故か気に入ってる

木島グループ

美鈴とレンをいじめてたグループいろいろありレンに壊滅させられた

登場人物紹介（後書き）

シーズン1の方もよろしくです

第2話夏休み初日（前書き）

どうも、こいん0712でう

シーズン2から書き方を変えて見たのですがどうでしょうか？

感想、アドバイスよろしくです

第2話夏休み初日

今日から、夏休み。ということで僕は爆睡していた

「まわれ、まわれメリーゴーランド」着メロが鳴った

携帯を見るとまだ、11時だった
もうちょつと寝かしてよ〜と思いつつ電話に出ると

「レンっ水着買いに行こう!!!」美鈴が大声で言った
また、挨拶無しですか、美鈴さん

「オハヨー美鈴、で何を買うって？」僕はまだ、寝ぼけている

「もしかして、レン今起きた？」

「うん、今まで寝てた」

「レン寝すぎは体に良くないよ。そんなことより水着買いに行こう水着」

そんな事よりって、彼氏の体調の事より水着買いに行くほうが大切なの????

それに、夏休み初日に水着買うって気が早すぎるでしょ

「別に、いいけど何処まで行くの？」

「隣のデパート!!!!!!」

隣のデパートってバスで行かないといけないじゃん
そんな、所まで行く必要あるのかな？

「遠いの嫌だから近くのショッピングモールでよくない？」

「レンは、彼女に可愛い水着、着て欲しくないの？」

「それは、そうだけどさぁ・・・わかったよ」僕は、根負けした

「やったー、じゃあバス停に12集合ね♪。遅れたら怒るからねっ。
じゃつまた後デー」

12時って、後20分しかないじゃん!!!
美鈴と話してたら30分くらい経ってた

「いそいで、準備しないと」僕は、そう呟き急いで顔を洗いに洗面
所へ行った

「バシヤ、バシヤッ」急いで顔を、洗ったから壁とか、鏡とかに水
が飛んだ

そして、歯を磨き、バックに財布、携帯、手帳、家の鍵、デパート
と言えば学生限定でセールとかやってそうだから、学生証を入れて
チャックを閉めた

朝飯は・・・食べる時間が無いからいいやつ!!

僕は、靴を履き、玄関の鍵を閉めて全力で走ってバス停へと向った
1台、2台、3台・・・何台自転車を抜いたことか
てかっ何でこんなに、自転車走ってるんだろう

やっと、バス停に着いた

「はぁ、はぁ」僕はかなり、息切れをしている

時計を見ると11時55分「間に、あったぁー」何故か、かなり嬉しかった

「レン、おはよー」美鈴は、もう来てたみたいだ

「美鈴もう、おはようの時間じゃない気がする」

「そうかな？まあとりあえずバス乗ろっ♪」都合よくバスがちょうど来たところだった

美鈴は、これを狙っ集合時間を12時にしたのだろうか

僕が、ポケットから飴を出し舐めようとする

「いいなーレン私も飴舐めたーい」

「俺は、美鈴が急がすから朝飯、食えなかったの！だから、食べるんだよ。一個しか、ないし」

「えー私も、舐めたいけど一個しかないんだったら、いいやつ」

僕が、飴を口に入れると、美鈴は寂しそうな顔をした……僕
の、飴なのに！？

「レンは、どんな水着がいい？」

「うーん二人っきりで、遊ぶならビキニとかの方が嬉しいけど……」

「」
「レンのエッチ！！！」美鈴は、顔を赤くしながら僕の頭を軽く叩いた

「でもっプールとかだったら露出が少ない奴のほうがいいかな？
美鈴の肌が、ほかの奴等に見られるのは嫌だし」

マジでそう思う！！！！美鈴の水着姿をガン見してる奴がいたらぶっ殺す

「そうかぁー、じゃあそうしようかなっ♪」

美鈴は、すごい笑顔で言った。

僕の、意見が聞けて嬉しかったのだろうか

僕も、僕の意見を取り入れてくれて嬉しかった

美鈴と、話をしているとバスがデパートに着いた

この、デパートはかなりデカイ。駐車場にバス停があるくらいデカイ
中には、専門店はもちろん、レストランや食料品売り場まである

簡単に言うとい〇ンみたいな所だ

「レンっ早く行こう」

「わかったから、ちょっと待って。バスの運賃払わないと」
僕の、財布は小銭が取りにくい

そして、運賃を払ってバスから降りた

「じゃあ、行こうか」

僕は、美鈴と手を繋いで歩き出した

そして、水着売り場に行くと・・・・・・・・僕は、一瞬自分の目を疑った。

バカ本が、女の子と楽しそうに水着を選んでいる

あいつ彼女居たのか?????????

第2話夏休み初日終わり3話に続く

第2話夏休み初日（後書き）

すいません、ちょっと頭が痛くなってきたので変なところで、
が一端きらせていただきます

最後まで、読んでくださってありがとうございます

感想、アドバイスよろしくです

第3話デパートでお買い物♪(前書き)

どうも、こいん0712です

バカ本は僕のお気に入りキャラです
後、新キャラ登場します

感想、アドバイスよろしくです

第3話デパートでお買い物♪

水着売り場に行くと……僕は、一瞬自分の目を疑った。
バカ本が、女の子と楽しそうに水着を選んでは
あいつ彼女居たのか??????

「おいバカ本——」

「おっ、早坂じゃねえか。何やってんだよ」

「俺は、美鈴と水着買いに来たんだよ」

「それよりさ、その子誰？」

かなり気になる、読者もそうだろう

「こいつ？俺の妹だよ」

えっこいつに妹居たの!!?? すんげえ意外なんだけど

「どうも、山本 凜です。いつも兄が、お世話になってます」

「おいっ、俺は早坂に迷惑とか、かけてないぞっ!!」
いやっ充分かけてるだろ……毎日

「ご丁寧でもっ、俺は早坂レン。こっちが……」

「こんにちは、「レンの彼女」の美鈴です」

美鈴……別にそこ強調しなくてもいいでしょ……

「凜ちゃんは、何年生？」

「中一です。××学校の1年です」

「そうか・・・中1って言ったら、結構勉強、難しいでしょっ」

「はいっ・・・でも、兄がバカで教えてくれる人がいないんです」
妹からも、バカって言われてるよ

てかつ中1の問題だらっ！！！！何で高1が解けないんだよ
なんで、こいつが前も思ったけど、うちの高校に入れたんだろう

「じゃあ、そんな時は俺が教えてあげるよ。お兄ちゃんが、俺のメル
アド知ってるからメールしてもらって」

「いいんですかつ ありがとうございます」目を輝かせながら言った

「よしっ凜水着選び続けるぞ！！お兄ちゃんはビキニがいいと思う・

・」

「お前は、中1の子に何を言ってるんだ」僕は、バカ本の腹を軽く
殴った

「すまん、すまん」バカ本は、謝る

それを見て、凜ちゃんもクスツと笑った

「んーーーーー」

後ろからの凄い殺気を感じる

「レン、さっきから彼女、ほったらかし！！！！」

「ゴメン、ゴメン。じゃっバカ本バイバーイ」僕は、そう言ってバカ達と別れた

あらためて、水着売り場を見るとさすがデパートって感じで、かなりの種類の水着がある。

ビキニやら、競泳水着やら 何かスクール水着じゃないけどあんな形の奴やら、いろんな種類がある

「レンは、何色がいい？」

「もう、高1なんだから柄物は無しだよなあ…………黒とかは？」

「黒かあ、探して見るね」

10分後…………

美鈴が、ごっそり持って来た

そして、黒ではない色の水着もある

「レンは、この中でどれがいい？」

「美鈴が、決めたら？俺の好みは言ったから後は、美鈴しだいだよ」
本当は、選ぶのがめんどくさいだけ

「じゃあっ これにしよう」

美鈴が、選んだのは胸元は、開いてないけどへそが、出る水着だった

「いいんじゃない、セクシーだし」僕が、言うと

「よしっレンを興奮させる為にこれを買おう」

いやっ水着は泳ぐために着るんだけど……まあ、本人が乗り気だからいいか

「じゃあ、買っておいで」

「うんっー!!!!」

僕は、水着売り場の前の、自動販売機でジュースを買って、飲んでいたら美鈴が、戻ってきて

「ゴメン、千円貸してくれない？ 予想以上に高くて……」
値札見ろよ……

「そのくらいだったら、あげるよ。彼女の水着だし」

「本当っレン大好きっ!!!!」
美鈴が、僕に抱きつく

その後、美鈴に千円渡した

そして、帰りのバス・・・・・・・・・・

美鈴が、爆睡している

まあ、あの後いろんな所、まわったしな

ふう、僕も寝たいけど寝たら無事、家に帰れない気がする

その後バスがバス停に着いて僕は、美鈴を家まで、送った

「美鈴、バイバイ」僕はそう言って、美鈴にキスをする

「うんっバイバイ、明日も遊ぼうねー」美鈴は、家の中に入っていた
った

僕は、家に帰ってくると「疲れたー」そう言って僕は冷蔵庫に入れているコーラを飲み干して風呂に入って寝た・・・・・・・・・・また歯を磨くの忘れたー！！！！

第3話デパートでお買い物♪（後書き）

最後まで、読んで下さってありがとうございます

新キャラの出番は少なかったんですが、これから出番が増えると思うので、よろしくです

感想、アドバイスもよろしくです

番外編 眞のバカ バカ本大和（前書き）

どうも、こいん0712です

今回は、バカ本がかなり、出て来ます

バカ本ファンの人は期待してください

.....

バカ本ファンなんているのかな？

番外編 眞のバカ バカ本大和

朝、目が覚めると6時だった

毎日、美鈴と朝から遊んでいたのだからかなり疲れが、溜まっている

だから、今日こそは二度寝してやろうと思いい寝る体勢にはいると・・・

「まわれーまわれメリーゴーランド♪」着メロが、鳴った

僕は、マジかよー！ー！ー！ー！と思いつつ着信拒否をするのは、嫌なので電話に出ると

「グッモーニング早坂、今日お前の家で勉強会しようぜ！」バカ本が大声で言った

「うるええー、バカ本・・・で、勉強会すんの？」

「ああ、夏休みの宿題まったく出来ないからさ」

こいつは、バカだからな・・・

「別にいいけど昼からな」

朝は、寝たい

「オツケー、じゃあ昼に全教科持って早坂の家に行くな」

ちよっと待て、全教科！！？全部俺に教えてもらうのつもりなのかよ

僕は、そう思い喋ろうとすると・・・電話がきれていた

「あんの、バカ本があ!!!!!!!!!!!!!!家に来たら、たっぷりしごいてやる!!!!!!!!!!」

僕は、一人で怒鳴り二度寝した

そして、昼・・・・・・・・・・

「おいーすっ」バカ本が、やって来た

僕は、リビングに案内すると

「じゃあ、座れ!!俺が、たっぷりしごいてやるからさ」

「おうつまかせろ!!!!!!!!!!」

バカ本は、やる気みたいだ

「とりあえず、やってみろ。わからなかったら呼んでくれ」
僕は、そう言って自分の宿題を始めた

「早坂ー」

もうっ!?まだ、初めてから10秒も経ってないぞ

「どこが、わからないんだ？」

「ここ!!」

そんな、自慢げに言われても

中学の復習1 第1問人は何を吸って、何を吐き出すでしょう？

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

これ、中学の復習にしては簡単すぎるだろう
ってえっ!!!! こいつ自分が、何を吸ってるのかも知らないのか？

「バカ本・・・」

「何だ、早坂お前もわからない程の何題なのか？」

「お前のバカ度は、小学生以下だ!!!! ということでは休みなしで7
時までぶっ通し!!!」

このくらい、しないとこいつはかなりヤバイ

「えーーーーマジかよ。まあいいか」

「いいのかよっ!!」僕は、バカ本にツツコンだ

そして、バカ本の地獄が始まる・・・

「3!?!?・・・全然違うっ!! やり直し!! どうやったらこうなるんだ」

「マジで!! 結構自信あったのに」

こいつ・・・かなりのバカだ何でXが出てくる問題で3だけになるんだよ

まだ、中学の復習だし・・・

「お前はバカか？」

「わからねえー」

「ここは、こうだー」

「違うだろーここは、こうだろ早坂」

そして、7時

疲れた。バカ本が、バカなのは知ってたけどかなり酷いバカだった
バカにも、まだマシなバカはいるけど、バカ本は最高級なバカだ

6時間やったわりには、ちょっとしか進んでないし

「いやー、かなり進んだなあ早坂のおかげだぜ」

マジで、あれがかなり進んだと、思っているのだろうか
僕が、やったら2時間くらいで済む範囲だぞ

「じゃあ、このお礼に今度飯おごれよ」

「おうっいいいぜ」

いいんだ、じゃあかなり高いやつにしてやろう

「もう、暗いし俺帰るわー」

「わかった　じゃあバイバイ」

美鈴だったら送るけどこいつは玄関にも行かず、リビングで言った

「バイバイ、また今度教えてもらうなあ早坂」

「ああ、また今度な」

心の中では、絶対に、やだ！こいつと勉強していると自分のが進まない
と思っている

そうして、バカ本が帰った

僕は、やっと帰ったーと思い適当に夕飯を作って食べ風呂に入った

そして、風呂上りに今度は、コーラじゃなくてサイダーを飲んだ

そして、歯を磨いて寝た・・・・・・・・・・・・今回は、忘れ
なかったぜ！

番外編 眞のバカ バカ本大和（後書き）

！マーク使いすぎでスイマセン

感想、アドバイスよろしくです

後、ネタ切れになってきたので一端、書くのをやめます、続きを楽しみにしててくれた人や、読んでくれた人、すいません

<http://ncode.syosetu.com/n6166k/>

第4話 泊まるのゝ? (前書き)

どうも、こいん0712です

綺麗だね♪久しぶりの投稿です

第4話 泊まるの？

僕は、今美鈴と海に行く計画を立てている

「ねえレン一泊ぐらいしようよ」

「俺達は学生なんだよ？そんなお金ないって。だから、日帰りでもいいんだよ」

「大丈夫、ここはかなり安いから」美鈴がチラシを見せてきた

「どれどれ……」

昼食と、晩飯と朝食付きで……6千円！？確かに安いけど。ここ、温泉もあるし

「ここ何か変な事起きた旅館なんじゃない？」

「そうだよ、この6千円の部屋は誰かが自殺した部屋だから安いんだって」

ええっ自殺！？僕は、驚きを隠せない

「そんな、部屋嫌だよ。やっぱり日帰りにしないと」

「レンが、高いところは嫌だって言うからこの部屋しかないんじゃない？」

「だから、日帰りにすればいいんだって」

「ヤダヤダ。一泊でもいいからしたい」美鈴が子供のように駄々をこねる

「はあ」僕は、ため息をついた

この部屋泊まるのも嫌だし、かといって、他の部屋は普通に高いし美鈴は泊まりじゃないと嫌だって言うし、僕にどうしろって言うんだ

「ねえ、レン泊まりにしようよ、夏の思い出つくろうよ」美鈴が僕の腕を、つかみながら言う

「はあ」僕は、さっきより長めのため息をついた

しょうがない。ここは、彼女の為に腹をくくりますか

「よしっ美鈴6千円の部屋に2泊しよう」

「えっいいの？しかも2泊も」

「どうせ、泊まるなら長いほうがいいじゃん」

「ありがとう、レン大好きっ♪」美鈴が僕に抱きつく

「ちょっと抱きつくなくて美鈴。ただでさえ熱いんだから」

僕の、家は恥ずかしながらエアコンがない。だから扇風機で頑張っている

僕は、その後旅館に電話をかけて予約をした。旅館の人に聞いたけど、僕達が泊まろうとしている部屋で自殺は本当にあったらしい

何にも無ければいいけど・・・僕は、ちよつとだけ幽霊とかオバケとか信用してるから心配だ

「まあいっか」僕は、そう呟き机の上のコーラを一気飲みした

「ゲフウウ」ゲップでちゃった。テヘ☆キモいか・・・こんな感じの前もあつたな

「じゃあ、美鈴明日の昼までに準備しといてね。」

「わかってるよ。じゃあ、準備もしなきゃいけないから。私そろそろ帰るね」

「それじゃあ送るよ」

「ありがとう」

僕は、美鈴を家まで送った後もう言わないでもわかんと思うけど美鈴にキスをした

「ばいばい」美鈴は、小さく手を振る

「バイバイ」僕も、小さく手を振るともうダッシュで家に帰った

そして、まだ昼で眠たかったので、泊まりの準備をしてから寝た

第4話 泊まるのゝ？（後書き）

最後まで読んで下さってありがとうございます

少しお願いがあるのですが、バトル物の小説のバトルシーン書き方を教えて欲しいんです

もし、教えてくれる人は、面倒ですがメッセージお願いします

感想、アドバイスもお願いします

第5話 自殺の間

今、僕達は電車で旅館に向っている

確か、パンフレットには僕の家あたりからだど2時間ちよっとって書いてあったからもうすぐ着くはずなんだけど

「ねー見て見てレンっ海が綺麗だよ」

美鈴が子供みたいにはしゃいでる

もうちよっとおとなしく出来ないのかな？

「美鈴もうちよっと静かにしたほうがいいと思うよ。周りの人に迷惑だしさ」

「そっか、そうだね」

美鈴は、テヘっと言って自分の頭をコンっとした
いつの時代だよ

古いよ美鈴……

「終点ー終点です」

電車内でアナウンスが流れる

目的地の旅館は、この駅から近いらしいけど……

僕は、駅の改札口に切符を通した

駅を出たらそこには、ここは、日本か？ってぐらいの自然が広がっていた

見渡すところ、畑、畑、畑、山、山、山、
家も昔風の木でできた感じの奴

ビルなんか一つもない。見る限りコンビニもない

たった2時間でこんな景色が変わるんだ

僕は、自分が住んでいる都会とはまったく別の風景に見とれていた

「レーン行こっ？」

美鈴が僕の手を掴み言う

「あっうん」

僕達は、歩き出す

荷物重たいなく、まあ2泊三日だから荷物はまあまあの量になるか
美鈴なんか旅行用の車輪が付いてるデッカイ鞆で来てるし

「見て見て海だよっ泳ごうよー」

美鈴が、繋いでる手を振る

「旅館に、荷物置いてからね」

「えー今泳ぎたいー」

美鈴が頬をプウーと膨らませながら言う
ははっ美鈴は可愛いなこの仕草も結構古いけど

「取られたら困るでしょ」

「まあそうだけどさあ」

美鈴は、下を向いて寂しそうな顔をした

こんなに美鈴子供ぽかったけ？

「ほらっ旅館見えたよ」

うわっパンフレットでもぼろかったけど、本物相当ボロイじゃん

「ホントだゝ渋い感じだね♪」

「そうだね」

渋いって言うよりただ単にボロイだけののような気がするけどね

「じゃあ、チェックインしようか」

「ウィー」美鈴が、敬礼しながら言う

えっ何それっ？ダサイよ美鈴

「美鈴・・・それ面白くないから止めときな」

「えゝ結構、自信あったんだけどなゝ」

僕は、美鈴にツツコムのがめんどくさくなって無視した

「早坂で予約したんですけど」

「あなたが、早坂様ですね。お待ちしております。こちらにお名前をどうぞ」

名簿的なものとボールペンを渡された僕は、名前をサラッと書いて渡した

「では、こちらが自殺の間の鍵です」

「ありがとうございます……って自殺の間あ!?!」
何だよそれ、恐ええよ

「はいこの部屋で自殺された方がいたので、自殺の間です。ここに泊まるということで予約したんですよね?」

「まあそうですけど、そんな名前が付いてるってしらなかったから驚いちゃって(汗)」

受付は苦笑いしている

自殺した部屋だからって、自殺の間はねえよ
ネーミングセンス激悪じゃねえかよ

「美鈴、鍵もらったから部屋行こうか」

「うん!」

美鈴が、僕の手に飛びついてきた

「美鈴、暑いから離れて」

歩いてここまで来たからかなり暑い、田舎だからクーラーないし

「嫌〜〜」

仕方ない、暑いのが我慢するか

はあ〜何で僕は、こんなに折れやすいんだろう?

ここだな……

「ガチャっ」

ドアを開けると、ホラー映画に出てきそうな部屋が僕の目に映った

美鈴は、いい感じの部屋だね〜とはしゃいでるけど

かなり、不気味な部屋だ。お化けとか出てきそうな部屋……

夜は覚悟しないといけないかも

覚悟しなきゃいけないかもって下ネタじゃないよ？

夜、オバケが出そうって意味だからね

そんなに気味悪いんだよこの部屋は、だから安いんだろうけど

「レンっ！早く海行こう海」

美鈴は、海のことしか頭にないわけね

「わかった、わかった」

僕達は、水着を着てその上から私服を着て海に向った

美鈴の、着替えは、もちろん見てないよ

第5話 自殺の間（後書き）

最後まで、読んで下さってありがとうございます
感想、アドバイスよろしくです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5489k/>

綺麗だね♪シーズン2「君の事が好き」

2010年10月11日11時31分発行